

登録コード	L1641103	開講年度	2026				
担当教員	白井 真理子			副担当			
授業科目	心理学特殊実験（心理学実験）						
英文授業名	Psychology：Advanced Experiments I						
授業タイトル	心理学特殊実験（心理学実験）						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・1時限 水曜・2時限
講義室	人文206演習室	遠隔授業科目			読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することにより、自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力を身につけることができるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。先行研究への理解を深めながら、自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することにより、過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力を身につけることができるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成し、その検証のために、実験や調査などの手法を用いてデータを収集・分析し、その結果を解釈し、論文としてまとめることができるようになる。これにより、情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーを獲得できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。先行研究への理解を深めながら、自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することができるようになる。これにより、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力（思索力・受容力・批判力）を身につけることができるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			先行研究への理解を深めながら、自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成し、その検証のために、実験や調査などの手法を用いてデータを収集・分析し、その結果を解釈し、論文としてまとめていくことができるようになる。これにより、専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力（開拓力・企画発想能力）を身につけることができるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	社会心理学、特に感情の分野において研究がいかに行われるか、その全体的な流れを学ぶ。授業の前半では、先行研究を読み、自らの問題意識をリサーチ・クエスチョンとして表現し、仮説にする。さらに、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査のためのシナリオや質問紙を構成する。このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与えあう授業構成とする。						
授業計画	第01回：ガイダンス：社会心理学における研究とは 第02回：問題の発見(1)：自らの問題意識を整理し発表する 第03回：問題の発見(2)：グループ・ディスカッションによって問題を深める 第04回：先行研究の探索と研究テーマの選定(1)：先行研究の探索の仕方を学ぶ 第05回：先行研究の探索と研究テーマの選定(2)：先行研究と自身の問題との関連を探る 第06回：発表と討論(1)：カギとなる先行研究を発表する 第07回：発表と討論(2)：カギとなる先行研究を批判的に読み、自身の問題との関連を深める 第08回：仮説の設定(1)：問題をリサーチ・クエスチョンとして表現する 第09回：仮説の設定(2)：リサーチ・クエスチョンに基づき仮説を立て、グループ・ディスカッションにより確定する 第10回：データ収集方法と具体的な手続きの決定(1)：データの収集方法、具体的な手続き、解析の方法を考える 第11回：データ収集方法と具体的な手続きの決定(2)：データの収集方法、具体的な手続き、解析方法についてグループ・ディスカッションにより検討する 第12回：データ収集方法と具体的な手続きの決定(3)：グループ・ディスカッションをもとに、手続きを精練し、決定する 第13回：実験・調査の準備(1)：仮説検討に適した実験シナリオ・質問紙を作成する 第14回：実験・調査の準備(2)：実験・調査手続きの計画をまとめる 第15回：中間発表会・まとめ、授業評価アンケート						

成績評価の方法	授業の討論への積極的参加(50%)と中間発表(50%)により評価する。
成績評価の基準	中間発表については、以下6項目の達成度から評価する。 1. 問題(背景)、目的、仮説、方法、結果(想定)の5項目が記述されている 2. 問題と目的が明確に説明されている 3. 仮説が先行研究に基づき明確に設定されている 4. 方法において、対象者、手続き、分析方法が詳しく説明されている 5. 結果において、予想される結果が記述されている 6. 人にわかりやすく伝える発表になっている 6項目すべてを満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「卓越している」、5項目を満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「かなり上にある」、4項目であり、かつ討論にやや積極的に参加していれば「やや上にある」、3項目であり、討論に参加していれば「その水準にある」と評価する。
事前事後学習の内容	自身の研究関心・テーマに基づき、論文を検索し読み込むことで、先行研究や関心領域の知識を身につける必要がある。各自、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献を随時チェックすること。
履修上の注意	「心理学基礎実験 ・ 」および「社会心理学基幹演習」もしくは「心理学基幹演習」を履修したものを対象とする。
質問、相談への対応	メール(mshirai@shinshu-u.ac.jp)で随時対応する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に適宜紹介する。